

人生の終末に思うこと

服部 尚子

なおこ皮膚科クリニック

この原稿依頼を受けてから、ワークライフバランスについて、いろいろ考えてみました。そして、仕事が趣味、あるいは趣味が高じて仕事になった人は、ワークとライフに境界がないのではないか、という疑問（？）が頭から離れなくなりました。

私の場合は、医師になる前に新卒で会計士補として会計事務所に就職しました。会計士になりたくて頑張ったわけではなく、男女雇用機会均等法が実施される前だったため“資格がないと女性は一生仕事をしていくことが困難”と考えての職業選択でした。いざ仕事を始めてみると、面白いこともあります、興味をもてないことも多々あり、自分に合わないかもしれないと思い始めました。このころは、ワークとライフがきっちりと区別されていて、仕事が忙しくて残業することはありましたが、ライフにワークを持ち込まない生活をしていました。

しかしながら“ワークが面白くないと、ライフも楽しくない”という思いから、結婚をきっかけに医学部に入り、医師となりました。

医学の勉強は興味深く、医師になってからの臨床も日々興味深いことばかりで、楽しく仕事ことができました。幸い家族の協力があり、仕事と家事と育児のバランスは、仕事に重点を置くことができました。いまは子どもも大きくなり、育児はほぼ不要で、家事も、手抜きで文句をいう人もいないので、ほぼ仕事の生活が可能となっています。

医師の仕事が面白くて、仕事が趣味ではありませんが、仕事が苦痛ではない状況でしたので、医師になってからは、ライフの中にワークが重なっている状況だったと思っています。

いま、人生の終末を目前にして思うことは、もう少し子育ての時間を楽しめばよかった、ということです。“後悔先に立たず”ですが、この気持ちを大切に仕事をセーブして、孫との時間を大切にしたいと考えている今日このごろです。



さて、いま、ある会計事務所の産業医をしています。専門職の方は仕事への責任感が強く、また、仕事が面白いためか、時間外労働の法定基準に引っかかる人がいます。そういう方は産業医面接をしても、仕事をするのが苦痛ではないため、長時間労働をまったく気にしていません。この原稿依頼を受けてから、衛生委員会のテーマにワークライフバランスを取り上げることになりました。どのような委員会になるか、楽しみにしています。

とりとめのない話になりましたが、私の場合は、ワークが楽しくないとライフも楽しいと思えなかったのが、楽しく仕事をしながらプライベートな楽しみも充実させていくこと、まさに、ワークとライフがバランスよく充実していないといけないということを実感しました。

医師の働き方改革で、長時間労働に制限がかけられるようになりました。男性も育休をしっかりととることができる時代になりました。法制度が変わっても、実現させるのは私たちです。みんなが充実したワークライフバランスを維持できるような社会を実現させましょう。